

チームKTR提案内容

1. 結成の目的

- リストラや廃線視野の議論ではなく、地域に愛される鉄道として持続していくために何をすべきかを議論する。
- ①安全・安心な運行の確保、②利用者の増加、③持続可能な経営の確立のための議論ができるチームを発足する。
- 安全・安心対策や集客の大幅増加などを含めたダイナミックな対策について、専門家を集めて抜本的な対策を検討し、北部地域総合公共交通検討会に問う。

チーム KTR

チームKTR(専門家によるチーム)

安全安心快適性、集客企画、経営資本

社内チームKTR

経営ビジョン策定チーム、KTR改革PT

各地域からの提案、取組

KTRアイデアポケット(福知山市)

KTRを再生しよう！宮津からの提案

京丹後市(網野高校、おかみさん会など)

.....

2. ティームKTR（専門家によるチーム）

池田 健	元 J R 西日本安全推進有識者会議委員
長谷川 一彦	嵯峨野観光鉄道(株)代表取締役
山澤 望	元北大阪急行(株)会長、元阪急電鉄(株)車両部長
檜野 孝人	(株) I M J 顧問、広島県広報総括監
側原 哲朗	(株)放送映画製作所営業企画部長
田中文夫	(株)放送映画制作所代表取締役
田中 邦彦	(株)放送映画制作所営業企画部
川村 裕文	(株)カランド代表取締役
坂本 賢司	(株)ジェイアール東海エージェンシー営業開発室長
中井 シノブ	フリーライター、元情報誌編集長
戸田 義人	(株)よしもとクリエイティブ・エージェンシーエリアプロジェクト西日本担当執行役員
木村 深雪	吉本興業(株)社長室
青木 成一郎	京都大学花山天文台
千代 勝美	(株)大島造船所顧問、元 J A L ホテルズ社長
北山 孝夫	北山創造研究所代表
水戸岡 鋭治	ドーンデザイン研究所、J R 九州デザイン顧問

3. 専門家チーム提案内容

① 安全・安心・快適策

開業以来様々な設備投資を実施し、施設数が増加している一方、施設の老朽化にもかかわらず修繕費は増加しておらず、むしろ運輸収入の減少により抑制されてきた。



十分な修繕できず、老朽化した施設・車両



- 現行の運行体系を維持しながら開業当時(20年前)の設備状況への回復を目指す
- 老朽取替設備については、一般的な近代化を実施
- 早期に改善を要する施設設備については、24~25年度に集中投資

軌道関係

19.5億円

道床 慣泥現象対策として砂の除去、砂利の積増し、突き固め
レール・マクラギ 50Nレール化、老朽木マクラギのPCマクラギ化
構造物 橋梁、跨線橋の塗装や部材劣化部の補強 等

電気関係

19億円

電子機器類 使用開始後20年余のCTC(列車集中制御装置)・電子閉そく
・通信等各装置の更新が必要
踏切等屋外設備 機器老朽化、塗装劣化、腐食の進行により取替 等

車両関係

3.6億円

導入後20年の割に老朽化が著しい。
内外装のリニューアルと冷房更新、日常のメンテナンスによる長寿命化

その他

保守体制の確立(屋外設備検査体制、車両保守社員養成)
JR西日本との協力
労働安全の強化、事故・故障マニュアル整備

②集客・増客策

「点」の観光地づくりから「面」そして「全」のまちづくりへ

- ・自然、景観、宿泊施設、食事、移動手段、買物など全ての要素でその土地の文化を感じることを楽しむ
- ・「一」の視点で観光地を見直す

鉄道が資産：コンテンツ(名物)としての鉄道

～列車をわざわざ乗りに来るファン獲得のために～

- ・魅力ある列車導入（既存車両改造）

つなぐ鉄道・住民のための鉄道

- ・鉄道が通っていないところへも行ける「乗り換え」システム

～支えてくれる地元利用者にさらに愛される鉄道に～

- ・まちの居間としての駅、待ち時間の楽しい駅、出会いを運ぶ鉄道

広域的な周知・集客

- ・関西、全国へ向けた周知・集客
- ・天橋立へ訪れる人を周辺地域へ
- ・劇場、テレビ放送を利用したPR
- ・映像制作によるKTR及び沿線地域PR

③経営改善策

経営哲学を固める

①成長戦略 民間の活力、競争力を

②収入源の多様化・複合化

③絶対地元主義 沿線全ての機関、企業、住民との
コラボ、シェア

現状を認識

➡ 増客を目指す

➡ シナジー効果を生む「仕掛け」

駅ナカ、駅ソト

➡ ランドマークとしての地域力

“駅 力”

上下分離

➡ 上に対しての固定補助

4. 社内チームKTR

目的：沿線から親しまれ地域に貢献する鉄道として、KTRを次世代に引き継いでいけるよう、今日のKTR抱える諸課題を整理し、計画的な経営改革を進める

● 経営ビジョン策定チーム

- 「KTR経営活性化5か年計画」の成果と課題の検証
- 10年後のビジョン「KTR経営ビジョン」策定
- 概ね3年ごとの「実施計画」作成
- 年度ごとの「重点目標」作成・管理

● KTR改革プロジェクトチーム

- 業務改革と社員意識改革
- 社内広報「KTRニュースの発行」
- 「プロパー勉強会」を立ち上げ
- 「目安箱」を各職場に設置
- 経営品質のワークショップ開催

5. 各地域からの提案

チーム『KTRアイデアポケット』～福知山エリア～

<目的>

北近畿タンゴ鉄道株式会社（KTR）を未来に残していくため、福知山市を舞台に様々な分野で活躍されている方々の生の声を聞かせていただき、KTRの活性化や利用促進に反映させる。

福知山青年会議所、ホテル、鉄道、観光、NPO、大学、大江高校関係者で構成

<アイデア>

● 経営に関すること

- KTR自らの活性化への社内の機運づくり
- 現状の分析と問題の把握による適正な運行体制（ダイヤ・人員・列車）の構築
- 宮福線への電車導入とJRとの相互乗入れ強化
- JR同型車両を導入し、独自のカラーリングで京阪神へアピール

● 利便性に関すること

- 駅や車両のバリアフリー化、駅へのアクセス、駅からの移動環境の整備
- 乗客・社員のマナー向上を啓発

● 集客に関すること

- 福知山を代表するブランド品や観光スポットを開発し集中的にPR
- 体験型、まちなか巡りなど「スロー観光」コースの設定
- 丹後地域との広域的な連携（小学校・保育園の遠足・授業での活用）
- 丹後・天橋立の府観光政策の推進
- 車両のデザインやラッピングを活用し車両自体を魅力あるものに
- 地元のゆるキャラの活用や車両基地の見学会や運転体験
- 大江駅や二俣駅の設備を活用し定期的にイベントを開催
- イベント情報やPRの見直し・強化
- 京阪神など域外に向けたホームページへのリニューアル
- ソーシャルネットワークの活用

● 大江高校生徒会アンケート

- KTRは大江高校にとってなくてはならない大切な交通機関
- ビジネス化学科にCMやポスターの製作依頼、KTRにちなんだグッズを製作

宮津市「宮津市版ティームKTR」

KTRを再生しよう!宮津からのアイディア!

- 目指すは『KTRは感動創造企業へ～鉄道事業者からの進化～』と題して、観光集客拡大策、経営運行の改善、利用促進策をとりまとめ

□観光集客拡大に向けて

- KTRが観光施設と旅行会社とのプラットフォームに、観光商品開発
- 企画列車～アミューズメント化～（魅力ある列車、新区間特急）
- 情報力の強化（JR京都駅に案内所、SNS活用）
- 観光鉄道となるための基盤整備（福知山駅の乗換利便性、クヰトカードの利用、宮津与謝200円バス）
- マニア向けの企画（鉄道ファン・アニメファンの獲得、1日駅長、ファン感謝デー）
- 大阪直通特急の復活、福知山駅でのホームt oホーム

□経営・運行の改善に向けて

- 車両広告の活用（京阪神の列車でPR）
- 高速バスとのアクセス強化（高速バスとの共通切符）
- 子供向け企画の企画開発
- 特急車両の有効活用（平日昼間特急を普通に）、発着番線の工夫（宮津）
- 女性車掌・職員の登用

□地域としての利用促進策

- 高齢者200円乗車、子ども乗り放題切符プレゼント、高齢者運転免許返納促進
- サイクルトレインの有効活用

◎その他市町の取組

★ 京丹後市

- ・ 網野高校生によるマナーアップ運動等の活動
- ・ 丹後機械工業協同組合による公用車に利用促進ステッカー貼付、遠足利用（100名参加）
- ・ 京丹後(宿)おかみさんの会によるアテンド列車の運行
- ・ 京丹後市観光協会＝SL運行に向けた検討
- ・ ケーブルテレビやラジオを積極活用したKTR利用啓発活動
- ・ 自治会やグループ遠足でのKTRの積極利用の啓発

★ 京丹後市・宮津市・与謝野町・伊根町

上限200円レール実践（今秋開始）

★ 舞鶴市、豊岡市

市民号（貸切列車）運行企画

★ 利用促進協議会

利用者40万人ワンモア運動、ファン感謝デー（KTR共催）、シンポジウム開催 等